

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2008年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文 学	研究科	教育学	専攻			
指導教員	所属・職名		氏 名					
	文学部教授		前田 一男 印					
自然・人文の別	自然	・	<input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人	・	共同	名
研究課題名	ライフコースリサーチに基づく高度経済成長期、中学校教師の教育実践研究							
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年			氏 名				
	文学研究科 教育学専攻 4年			佐 藤 良 印				
研究組織	在籍研究科・専攻・学年			氏 名				
研究期間	2008年度							
研究経費	200千円							

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

戦争という特異な時代の「1941～1945年生まれ埼玉県公立中学校教師」が、高度経済成長期後期に教職に就き、教育政策、社会、親からの要求等の諸条件の制約を受けながらも、コーホート（世代集合体）として、教育・実践を行い、成果と課題は何かをライフコース的手法で明らかにする事は、戦後の教師教育研究では極めて重要なことと認識している。

具体的には、調査票調査を行い、対象者の中から抽出した特徴的な教師に聞き取り調査を行い量的と質的調査の統合的接合を試みた。本研究によって、経済成長の下で、政治、経済、社会等に翻弄されながらも、学校教育の基底の部分の直向きに懸命に支えていた「名も無い平凡な教師達」が、どのような教師観や教育観を持ち、どのような指導・実践を行い、問題行動や学校病理にはどう対応し、いかなる教師観や力量形成を行なったかの実像を明らかにすることが出来た。従来の教師教育、戦後教育史研究の上で、また、現在の教師達に有効な提言を行なう事の出来る実践研究である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[戦中生まれ教師] [ライフコースリサーチ] [公立中学校]